

働く意味を考え、実際の仕事を体験して、進路選択に役立てるといふ「職場体験」。9月25日(火)、中里中が3年生を対象に行い、役場へ4人の生徒がやってきました。

このうち、広報係に来た秋元咲穂さんには、今回、広報の表紙を作ってもらうことにチャレンジしてもらいました。

この日は朝方雨が降り、なかなか作業をしている農家を見つけられず、車で走ること30分。見ず知らずの農家に飛び込みで声をかけ、撮影・取材したのが今月の表紙です。

秋元さんは「カメラで撮影がしたかった」そう、今回広報係にやってきました。最初は、コンパクトデジタルカメラと比べ、非常に重い一眼レフカメラに少し戸惑っていたようでしたが、ご覧のとおり、さっ爽としたカメラマンぶりです。

秋元さんは、記事の作成、写真の現像、編集・レイアウトや、校正(誤りを直す作業)などの体験をし、一日広報マンとして大活躍してもらいました。

今月の表紙、なかなかの出来だと思えますが、皆さんいかがですか？



小泊中佐藤くんが最優秀賞獲得

防犯弁論大会
中里中の2人も入賞



防犯に関する発表で、少年の健全育成と社会の一員としての自覚を持ってもらうために行われる防犯弁論大会が、9月18日(火)中里中で開催され、佐藤翔太くん(小泊中3年)が最優秀賞を獲得。9月26日(水)には県大会へも出場しました。

佐藤くんは「佐藤家=サザエさん一家？」と題して、自らの家族について発表。家族団らんの大切さを、身振り手振りを交えて訴えました。森審査委員長によると「家族の団らんでいじめ防止につながるという視点が防犯につながる」ことと「切り出し方、見せ方がうまかった」そうで、最優秀賞受賞のポイントになったようです。

またこの大会には、中里中からも2人が出場し、

「いじめをなくすために」と題して秋元美月さん(1年)が、「仮面を外して」と題して齋藤アスカさん(3年)が発表。2人とも奨励賞を獲得し、町から出場した3人すべてが入賞するという素晴らしい結果となりました。

小泊中の木村先生によると、佐藤くんは自ら弁論大会への出場を希望し、夏休み中に何度となく発表の練習をして、今回の大会に望んだそう。佐藤くんは「今の家庭には団らんが足りないと思い、それを伝えようと今回のテーマに選んだ。まさか(最優秀賞に)選ばれるとは思っていなかったのでびっくり。県大会でも自分の力を発揮できるようにがんばりたい」と抱負を話していました。

